

被曝農業時代を生きぬく

第24回

原木キノコの生産を支えてきた福島県の里山のこれから ぶくしま中央森林組合参事 吉田昭一



吉田昭一参事

福島県の阿武隈山系がきのこ用の原木で国内最大の産地だったことをご存じだろうか。過去形で話すのは、2011年3月の原発事故で山々が放射能に汚染され、その材料となるクヌギやコナラが伐採されなくなっただけである。この事態を誰よりも腹立たしい、悔しい、そして何とか元に戻したいと痛切に感じている人



辺り一帯広葉樹ばかり

突然に景色が変わった。田村市都路町から東京電力福島第一原発

物がある。ぶくしま中央森林組合参事の吉田昭一(57)である。入組してから原木の産地づくりに尽力してきた彼に、福島の里山のこれまでとこれからを聞いた。

(取材・まとめ/窪田新之助)

路町から東京電力福島第一原発のある大熊町に車で入った途端に、である。国道の両脇は急に木々が鬱蒼としていて薄暗くなり、ところどころ、その幹にはつる性の植物が絡み付いている。それまでは散髪後の頭のよ

うに、きれいに刈りそろえられた里山が広がっていた。

「一変したただべ。ナラ、クヌギがなくなっただけよ。代わりに色々な樹種が生えている。ここは別の森林組合が管理しているんだ。おそらく100年ぐらいは経ってるよ、いやもつとかな。木というのは老化細胞がないからね。屋久杉だけじゃない、火事や虫食いの被害がなければ、どんな木もただけだっただけで生き続けるわけだ。いわばこれが天然林。一方、都路の方は広葉樹林ばかり。あのよな里山を作ろうと思ったら莫大なコストがかかるよ」

吉田が言うように田村市の旧都路村に広がるような里山は、日本全国を見渡しても、おそらくどこにもないだろう。ここの人々は、戦後、その植生をコナラやクヌギなどでそろえてきた。太い幹はまず見当たらない。木々は植えてから20年を迎えれば、地点ごとに一斉に伐採するから

だ。それがどれだけ大規模であるかは、たとえばある年には大熊町までの10kmの道のりに広葉樹がほとんど見当たらなくなるといえば分つてもらえるだろう。都路町の森林面積は4750ha。このうち広葉樹2700haが定期的に更新されてきた。

「都路には戦中には国家的な政策でナラを植えていた。戦後になってからは経済性を踏まえて黒炭にしてね、それを工業用としてどんどん送っていた。それが燃料革命で売れなくなっただけだ。だから私が森林組合に入った当時は仕事じゃなかったね。ほかの組合は松くい虫対策とか県から受注する針葉樹の植林といった仕事があった。でも、うちのところは松くい虫の被害はなかったし、広葉樹だったからね」

「で、スギやヒノキを植林しようかっていう話もあった。ただ、私が組合に入った頃にはそれらの需要は落ちてきたから、どうしようかってな



“被曝農業時代”を生きぬく



シイタケ農家に 支えられてきた福島県の里山

つてね。そんな時、ちょうど原木の需要が出てきたのが幸いだった。(種菌メーカー森産業の) 森喜作さんが開発した種駒が広がって、都路に行けばちょうどいい太さの良質な木があるぞって噂になってね。近隣の町の山にも広葉樹はあつたんだけど、葉タバコの苗を生産するのに腐葉土が必要だからって、木を切らずにおいたのね。たくさんの葉を取るために。でも、それだと太くて使いものにならないわけさ。だから都路が原木の産地になったのは偶然だったんだよ」

読者は6月号の農業経営者ルポで取り上げた、茨城県つくば市で原木シイタケを作る(有)なかのきのこ園代表の飯泉孝司を覚えているだろうか。吉田とほぼ同年代の彼がその栽培を始めたのは、ちょうど旧都路村で原木の生産が始まったころ。茨城県は福島県産の原木を最も購入してきた。中でも飯泉は年間に購入する20万本を超える原木のほぼすべてを福島に頼ってきた。原木を通して福島は茨城、あるいは全国のきのこ生産者を支えてきたのだ。

「それは生活がかかってから、努力したよ。原木にいい木はどういうも

のかということをとにかく勉強した。お客さんから、おたくの木なんか要らないよって言われれば、そりゃ色々調べるさ。大きな農家さんは、切る前の木を見に来る。この山のこの木をくれよ、と。彼らは木の良し悪しで見極めるから。スパーのバイヤーが畑に買い付けに行くのと同じだよ。自分たちもシビアにいい木を作らなくてはいけないのさ。そのぐらいの品質を求めてきたんだよ。

吉田は山を「畑」と呼ぶ。それは日本の山々の多くが放任されているのに対し、きのこ生産者の要望に応じて広葉樹を栽培しているという自負があるからだろう。もう一つは都路町の山々がなだらかな丘陵地で、段々畑のようなところに木々を植えていることもある。

「この原木が支持されたのは良質なこともあるけど、価格が安いことから、運び出すのにコストがそれほどかからない。山に近づけばわかって、林道が網の目のように張っている。なだらかな丘陵地にあま

りお金をかける必要もなく、崩落もまずないからあまり修繕しなくていい。もつと傾斜がきつい山ならそうはいかないべ。法面はがっちり固めなくてはいけなから。だからこは特殊中の特殊なのさ。だいたい総収益の8割が広葉樹という森林組合はないから。普通はスギやヒノキのような針葉樹がメインだつて」

その「特殊」な山では原発事故をきっかけに木々が伐採されることはなくなった。そこから国の指標地を越える放射性物質が検出されたからである。全国の原木きのこの生産者がいま、福島県の里山の再生を願っている。それに応えるため吉田らはどんな取り組みをしているのか、次回取り上げる。(文中敬称略)

シイタケ用原木の他県からの調達ルート (2011年実績)

都道府県	第1位			第2位		
	県名	材積	比率	県名	材積	比率
01 北海道	秋田県	532	100%	-	-	-
02 青森	岩手県	1,711	95%	-	-	-
03 岩手	秋田県	102	59%	青森県	72	41%
04 宮城	福島県	741	75%	岩手県	200	20%
05 秋田	岩手県	35	100%	-	-	-
06 山形	福島県	330	70%	秋田県	120	25%
07 福島	宮城県	98	100%	-	-	-
08 茨城	福島県	6,580	67%	栃木県	3,106	32%
09 栃木	福島県	2,205	68%	茨城県	488	15%
10 群馬	栃木県	1,088	29%	長野県	1,080	29%
11 埼玉	福島県	448	66%	群馬県	150	22%
12 千葉	福島県	2,619	76%	宮城県	800	23%
13 東京	福島県	940	77%	山梨県	248	20%
14 神奈川	福島県	668	78%	山梨県	178	21%
15 新潟	福島県	1,088	67%	山形県	218	13%
16 富山	石川県	91	54%	福島県	76	46%
17 石川	福島県	314	100%	-	-	-
18 福井	福島県	159	50%	山形県	123	38%
19 山梨	長野県	129	49%	群馬県	78	30%
20 長野	福島県	92	44%	山梨県	56	27%
21 岐阜	福島県	769	52%	石川県	220	15%
22 静岡	山梨県	1,256	63%	長野県	300	15%
23 愛知	福島県	699	52%	長野県	358	27%
24 三重	福島県	591	48%	-	-	-
25 滋賀	福島県	70	54%	山梨県	60	46%
26 京都	福島県	90	30%	岩手県	70	24%
27 大阪	宮城県	387	38%	福島県	319	31%
28 兵庫	岩手県	456	41%	宮城県	250	23%
29 奈良	福島県	732	63%	宮城県	292	25%
30 和歌山	福島県	371	57%	栃木県	205	31%
31 鳥取	福島県	308	77%	宮城県	70	18%
32 島根	大分県	50	100%	-	-	-
33 岡山	-	-	-	-	-	-
34 広島	島根県	502	61%	岡山県	147	18%
35 山口	大分県	74	85%	福岡県	8	9%
36 徳島	山梨県	85	57%	香川県	64	43%
37 香川	徳島県	42	60%	岡山県	28	40%
38 愛媛	-	-	-	-	-	-
39 高知	愛媛県	126	100%	-	-	-
40 福岡	大分県	508	95%	熊本県	27	5%
41 佐賀	-	-	-	-	-	-
42 長崎	佐賀県	660	100%	-	-	-
43 熊本	山梨県	4,988	52%	福岡県	2,694	28%
44 大分	-	-	-	-	-	-
45 宮崎	熊本県	783	100%	-	-	-
46 鹿児島	宮崎県	20	100%	-	-	-
47 沖縄	-	-	-	-	-	-

※林野庁の統計を参考に作成